

TKA 術後に大腿骨コンポーネントに loosening(debonding)を呈した症例に対する revision 経験

福井赤十字病院

小谷友弥、高木治樹、高塚和孝、浅野太洋、高嶋理、北折俊之、森瀬博子、相模昭嘉、仲谷健次、村上晃規

【目的】当院では KU 型人工膝関節において数例の debonding 型 loosening 症例を経験している。

KU3,4 に関してはトレイに RKS のインサートが対応している。しかし、BS-5 に関しては対応していないのが現状である。

今回、debonding の概要と最近の当院での症例について報告する。

【症例】

症例 2：女性。69 歳の時に、左変形性膝関節症に対して左人工膝関節全置換術 (Kyocera 社 KU-3 使用)を施工した。術後 14 年目に左膝疼痛を認めるようになり、関節水腫・レントゲンにて左大腿骨コンポーネントに debonding 型の loosening を認めた為、Kyocera 社 RSK にて revision を行なった。現在当院外来にて follow を継続している。

症例 2：女性。71 歳の時に左変形性膝関節症に対して左人工膝関節置換術を施行した。術後 5 年目に大腿骨コンポーネントの debonding を認め、Kyocera 社 RSK にて revision を行なった。脛骨コンポーネントには loosening は認められなかったが、現在 BS-5 では RKS とインサートの互換性がないため脛骨側も置換を行った。現在当院外来にて follow を継続している。

【術中所見】両症例とも大腿骨コンポーネントの抜去は容易であった。セメントを除去したところ症例 1 内外側にセメント下には、症例 2 では内側に osteolysis を認めた。症例 1 では Block のみでは骨欠損を補填できない為、同種骨移植を、症例 2 では欠損は付属の Block にて補填を追加した。両症例ともに Stem 付きインプラントを挿入した。

【考察】 KU 型の debonding 型の loosening 症例は 2005 年前後に散見され、報告されている。Debonding の要因としてはセメンティング時の湿潤や、インプラント材質・形状、患者要素としては活動性の高さなどがあげられる。本症例はいずれも術後 5 年以上経過しており、術後、正座可能なまでの良好な可動域を獲得されていた。両症例ともに、debonding を生じた要因としてはインプラントの材質及び術後活動性の高さが原因であったのではないかと考えられる。